

本学初クラウドファンディングを活用した ポスター修復プロジェクト

美術工芸資料館 技術補佐員 山本彩

開学120周年・創立70周年記念を迎える本年、美術工芸資料館では、「近代デザインの誕生―京都工芸繊維大学美術工芸資料館名品展」(2019年5月15日から8月10日まで)を開催しています。本展覧会では、本学では初となるクラウドファンディングを活用したプロジェクトによって修復されたポスターを展示しています。

クラウドファンディングは、インターネットを通じて事業の内容を公開し、不特定多数の支援者からプロジェクトへの財源の提供や協力を募るものです。「All or Nothing」という仕組みで、目標金額に満たない場合は不成立となり、その時点での支援金は支援者に全額返金されます。本学では、2019年2月から3月にかけて、「100年以上前のポスターを修復し、貴重なデザイン教材を次世代へと題したプロジェクトを立ち上げ、支援協力をお願いしたところ、多くの方々から応援いただき、目標金額の100万円を超える支援をいただきました。

美術工芸資料館の所蔵する資料は、明治35年(1902)に設立された京都高等工芸学校が教材として収集した資料が基礎となっています。開校時に設置された図案科では、欧米の最新のデザインを取り入れ、教育するために、多くのポスターが積極的に集められました。なかには、初代の教官であった浅井忠や武田五二がヨーロッパで購入してきたポスターも含まれています。フランスのポスター創成期の作家であるジュール・シエレ、アンリ・ド・トゥールーズ・ロートレック、テオフィル・アレクサンドル・スタランなどによる、本館を代表するポスターはこの時期に収蔵されています。その後も購入や寄贈により収蔵のポスターは増加し、その数はいまでは2万点以上にのぼり、本館収蔵資料の中核となっています。

しかし、1900年前後に製作されたシエレやスタランなどは、教員がヨーロッパで購入し持ち帰ったと思われるポスターの一部には、時間の経過により折れや汚れなどの損傷が進み、保存・展示が困難なものが複数あり

ます。これ以上の損傷を食い止め、100年以上前の貴重な資料を次世代に引き継いでいくためには、損傷を補修し、より保存に適した状態に修復することが必要です。収蔵ポスターのなかから、特に損傷の激しいもの13点を選択し、クラウドファンディングで支援いただいた資金をもとに、専門業者に修復作業を依頼しました。

修復したポスターは、アルミ製の額縁で保管されていたポスター群と、近年寄贈を受けた、折りたんで保管されていたポスター群に大別されます。アルミ額縁のポスター群は、ベニヤ板に直接貼り付けてあるため、ベニヤが水分を吸収し、ポスター本紙を傷める懸念があります。また、アルミの額縁は収納スペースと展示上の汎用性に欠ける難点もあります。これらのポスターはベニヤから剥がし、和紙の裏打ちを施しました。また、長年折りたんで保管されていたポスター群は、折り目に穴が開くなど損傷が激しく、本紙がもろくなっているために、展示が不可能な状態でした。このなかには、アール・ヌーヴォー様式を代表する作家アルフォン・ス・ミュシャによる「リジー」(1910)が含まれています。紙の折り目を伸ばし歪みを補正後、本紙の欠けた部分には紙をすいて穴を補修し、和紙による裏打ちを施しました。厚みのある裏打ち紙でポスターを補強したことで、今後の保管や展示に十分な強度が得られました。修復により、ポスター本来のデザインの魅力がよりよく観察できるようになりました。髪や布の繊細な描きこみと太く強調された輪郭線、また細かく描きこまれた頭部や周辺の装飾部分に対して身体と背景の平面的な表現が、画面のコントラストを生んでいます。特に人物頭部とその背景の花が色鮮やかに画面を彩るさまが目を引きます。

この度修復作業が完了したポスターは、現在開催中の「近代デザインの誕生―京都工芸繊維大学美術工芸資料館名品展」で展示しています。本展覧会では、日本におけるデザイン黎明期に参考資料、教材とし

て収集され、実際に実習等で活用された資料類を展示しています。1階展示室では、京都高等工芸学校図案科の初代教授であった浅井忠ゆかりの作品、京都高等工芸学校時代に使用されていた教材と、当時の生徒の手による作品、アール・ヌーヴォー様式とアール・デコ様式の工芸品を紹介いたします。2階展示室では、世界のポスターを紹介いたします。5月15日(水)から6月15日(土)の前期展には、本館所蔵のポスターコレクションから参考資料を含む107点を出品しました。シエレ、ロートレック、スタランなどのフランスの19世紀末のポスターから、様々な商品や劇場の宣伝、博覧会のポスターを中心とした華やかなアール・ヌーヴォー様式、ウィーン分離派のデザイン、1920年代以降のカッサンドルや里見宗次らに代表されるアール・デコ様式のポスターまでを網羅する内容です。展示後半には、明治時代から昭和頃までの日本のポスターの名品を展示しました。日本人にとって新しいメディアであったポスターが受容されていく流れ、海外のデザインが日本のデザイナーに与えた影響と、日本のポスターデザインが独自の発展を遂げる様子を俯瞰します。

また、2019年は日本とポーランドの国交樹立100周年を迎えます。6月24日(月)から8月10日(土)の後期展では、19世紀末から1930年代までのフランスを中心としたヨーロッパのポスターに加え、当館収蔵の1950〜90年代のポーランドのポスターと、現在活躍中のデザイナーのポスター作品を紹介する「ポーランドの現代ポスター展 50年代黄金期から現在の最新ポスターまで」を同時開催いたします。日本ではまともに見る機会が少ないポーランドの現代ポスターの、個性豊かな作品群を楽しんでいただけると幸いです。



図1
右 ミュシャ・アルファオス(リジー)(1910) AN.5774-21 修復前
左 修復後



図2
「近代デザインの誕生―京都工芸繊維大学美術工芸資料館名品展」
展示の様子